

ぜん息重症度の経年変化に及ぼす因子の検討

1 目的

説明変数に欠損値を 1 つも含まない認定患者のデータを用いて、ぜん息重症度の改善または悪化に影響を及ぼす因子を探索する。

2 対象

令和 6 年度認定患者（令和 4 年度と令和 6 年度を比較して重症度が改善または悪化した患者）
15 歳以下 19 人 16～64 歳 1,884 人 65 歳以上 1,400 人

3 方法

令和 6 年度の認定患者のぜん息重症度がそれぞれ、前回の申請時から改善したか、悪化したかについて、生活環境整備に係る項目のうちどの因子が影響を与える可能性があるか調べるため、ロジスティック回帰分析を適用させた。変数の選択は、p 値を用いたステップワイズの変数選択（減少法）を行った。

4 解析

(1) 目的変数

重症度 改善／悪化（1／0）

(2) 説明変数

質問 21-1～20 の生活環境整備 実施／未実施（1／0）

5 結果

ロジスティック回帰分析を行った結果、以下の因子が重症度の経年変化に影響を与えていると考えられた。

16～64歳

	係数	標準誤差	p値	オッズ比	95%信頼区間
切片	0.039596	0.142490			
質問21-19 マットレスの裏表に掃除機をかけている	-0.326474	0.135131	0.0081	0.753	0.611 - 0.929